

サーキュラーエコノミーの実現に向けた 銀行界の取組みについて

2025年3月13日



一般社団法人

全国銀行協会

全国銀行協会によるサステナビリティ推進の取組み

SMBCグループによるサーキュラーエコノミー実現に向けた取組み

全国銀行協会のサステナビリティ推進体制

- 全銀協は、2018年度から「SDGs / ESG推進検討部会」を設置し、サステナビリティの推進に関する活動を統括。**毎年度、「SDGsの主な取組項目」の策定、活動実施、役員会への定期報告、「SDGsレポート」の公表**を軸としたPDCAサイクルを実施。

「SDGsの主な取組項目」策定

- 毎年度、経営計画である「中期計画」と連動するかたちで「SDGsの主な取組項目」を策定し公表

「SDGsレポート」公表等

- 毎年度、1年間の全銀協の活動状況を取りまとめた「SDGsレポート」を公表
- 次年度の「SDGsの主な取組項目」の見直し



SDGsの主な取組項目に沿った活動実施

- 所管部門で活動実施

役員会への定期報告

- 半期毎に所管部門の活動状況を取りまとめ役員会に報告

「SDGsの主な取組項目」(2024年度)

- 1 SDGs / ESGに関する会員銀行の取組みの一層の推進
- 2 2050年カーボンニュートラル/ ネットゼロへの「公正な移行」をはじめとしたサステナブルな社会の実現に向けた銀行界に期待される役割の発揮
- 3 地域経済の活性化、地方創成への取組み
- 4 金融経済教育活動の推進による国民の金融リテラシー向上
- 5 高齢者等、様々な利用者に対する金融アクセス・サービスの拡充等
- 6 デジタル化の推進と安心・安全かつ利便性の高い金融サービスの提供
- 7 金融犯罪およびマネー・ローンダリング、FATFへの対応
- 8 人権・ダイバーシティを巡る動向を踏まえた取組みの充実

全銀協の環境問題に関する取組みの深化

- 2001年に経団連「環境自主行動計画」に参加。それ以降、**循環型社会形成に係る数値目標の設定**（プラスチック関連目標を含む）や**TCFD提言への賛同**、**TNFDフォーラムへの参画**など、多様化するサステナビリティ課題への対応にも積極的に対応。



全銀協の環境問題に関する数値目標

循環型社会形成に係る数値目標 (2021年1月)

- ・2025年度における**紙のリサイクル率**を90%以上
- ・2025年度における**再生紙および環境配慮型用紙購入率**を75%以上
- ・2025年度における**通帳府発行型預金商品**を取り扱う銀行数の割合を80%以上

プラスチック関連目標 (2019年3月)

- ・使用後の**ペットボトルの分別**を会員行100%で**実施**する
(目標年度は2030年度)。
- ・清掃活動等による**海洋プラスチックごみ**を減らす取り組みを会員行100%で**実施**する(目標年度は2030年度)。
- ・銀行界は**資源の効率的な利用**や**廃棄物の削減**を実施する。
- ・銀行界は政府方針に沿った**プラスチック関連の対策**を行う企業への積極的な支援を行う。

地球温暖化対策に係る数値目標 (2023年1月)

- ・2030年度における**CO2排出量**を2013年度比で51%減とする。
- <2050年度を展望した温暖化対策目標>
- ・社会全体の**カーボンニュートラル/ネットゼロ**への公正な移行に向けて、**銀行界を挙げて推進**するとともに、**CO2排出量の実質ゼロ**を目指す。

サーキュラーエコノミーと気候変動・ネイチャーポジティブとの統合的な取組み

- 2021年12月、「カーボンニュートラルの実現に向けた全銀協イニシアティブ」を策定し、気候変動問題への対応を強化。年次で活動の見直しを実施。本日、「全銀協イニシアティブ2025」を取りまとめ、サーキュラーエコノミーを重点取組分野に位置づけ。

銀行界としてのミッション

社会経済全体の2050年カーボンニュートラル
/ ネットゼロへの「公正な移行」(Just Transition)を支え、実現する

全銀協の基本方針

- お客さまの移行支援に向けた会員各行の取組みを、業界団体として後押し、さらに加速させていくための基本方針

- 1 金融・社会インフラとしての役割発揮
- 2 産業界との連携
- 3 政府・関係省庁への提言
- 4 国際的な議論への参画

重点取組分野

- 1 エンゲージメントの充実・円滑化
- 2 サステナブル・ファイナンスの裾野拡大
- 3 開示の充実
- 4 気候変動リスクへの対応
- 5 ネイチャーポジティブ・サーキュラーエコノミーとの統合的な取組み

全銀協イニシアティブに関する主な活動（2024年度）

会員行のエンゲージメント支援

- ・商工会議所等における脱炭素経営に関する講演
- ・会員行担当者を対象としたセミナー（全銀協CNI Compass Program）において、会員行の取組事例を共有

情報発信 / 意見発信

- ・金融庁「サステナブルファイナンス有識者会議」など、関係省庁の審議会、検討会への参画
- ・総合エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会/電力・ガス事業分科会 再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会において「再生可能エネルギーの主力電源化に向けた銀行界の取組事例」のプレゼン実施
- ・国内外の市中協議への意見提出
- ・全銀協ウェブサイト内に設置した「気候変動特設サイト」を通じた、国内外の政策動向の情報発信

銀行担当者の知識向上支援

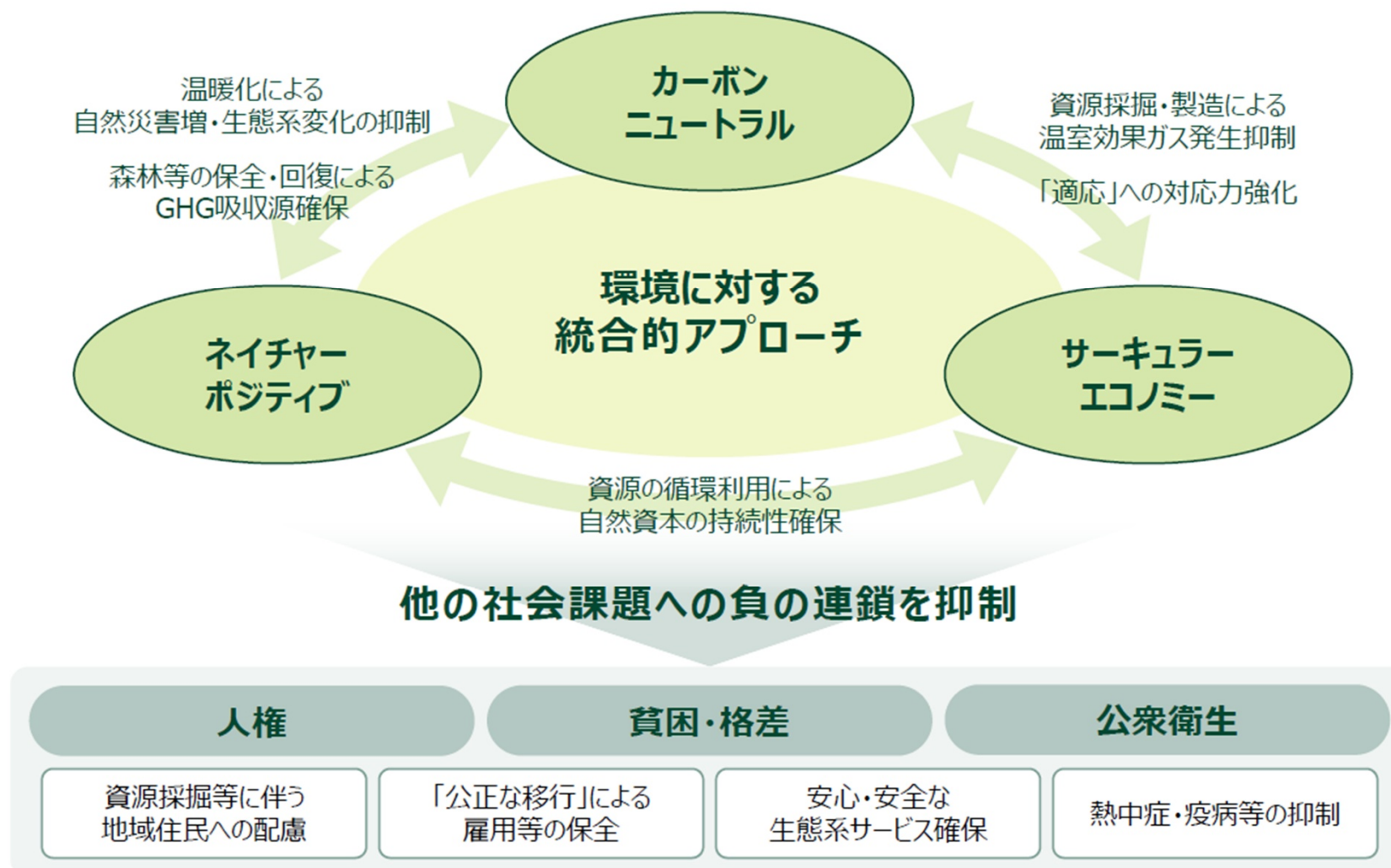
- ・会員行担当者を対象としたセミナー（全銀協CNI Compass Program）において、「**第五次循環型社会形成推進基本計画**」の概要を含む、**国内外の政策動向を紹介**

全国銀行協会によるサステナビリティ推進の取組み

SMBCグループによるサーキュラーエコノミー実現に向けた取組み

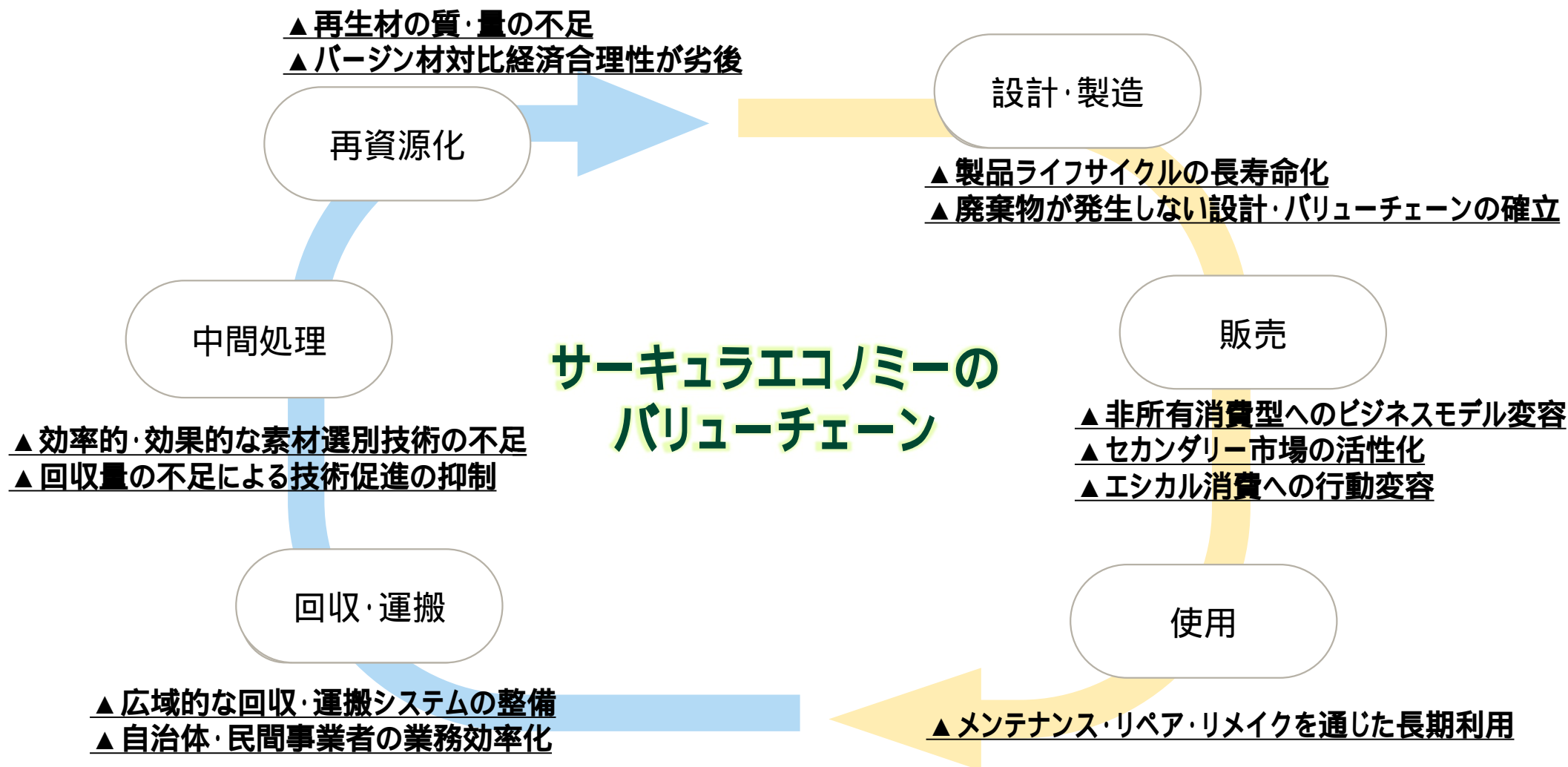
環境課題の解決に向けた統合的アプローチ

- 循環経済・気候変動・自然再興に統合的に取組むことで、その他社会課題への解決に貢献



■ サークュラーエコノミーに取り組むうえでのボトルネック

- サークュラーエコノミーを実現するうえでは、バリューチェーンの各工程に存在する複雑なボトルネックの解消が必要



■ SMBCグループの提供価値

- SMBCグループ各社が有する機能を結集し、サーキュラーエコノミー構築に貢献

Incubate

- 調査研究・課題特定
- 産官学民連携の
コンソーシアム組成
- 実証実験・社会実装

Accelerate

- 萌芽技術への投資
- 再生材生産能力拡大に
対するファイナンス

Execute

- モノの所有・管理による
サーキュラー型ビジネス
モデルの構築
- 企業との提携を通じた
静脈ソリューション



● EV電池の国内の循環利用を促進することを目的にEVスマートユース協議会を設立

スマートユースに向けたポイント

新車EV利用

残価向上、
電池の品質向上

中古EV普及

電池能力評価、
品質保証

リユース電池製造

安全性、
残存能力の管理

電池リサイクル

品質確保、
CO2削減効果確認



活動内容

業界の情報共有

国内外政策動向、技術の動向等に関する情報の共有

会員の活動紹介

協議会参加企業の
取組、技術、サービス等の紹介

市場形成に向けた検討 (部会形式)

2024年度は下記のテーマの検討を予定

規格標準化

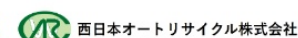
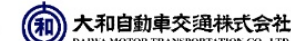
評価指標

CO2削減

社会実装

参画企業

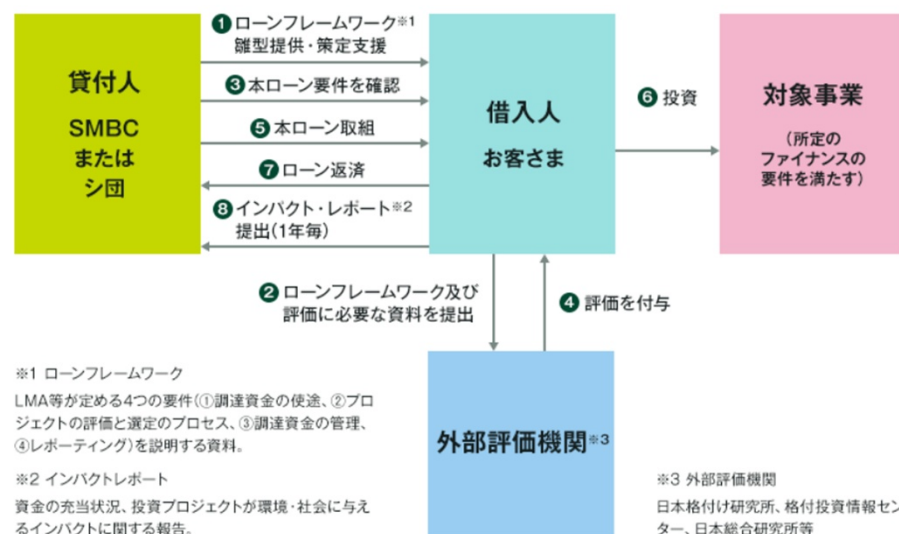
設立時メンバー



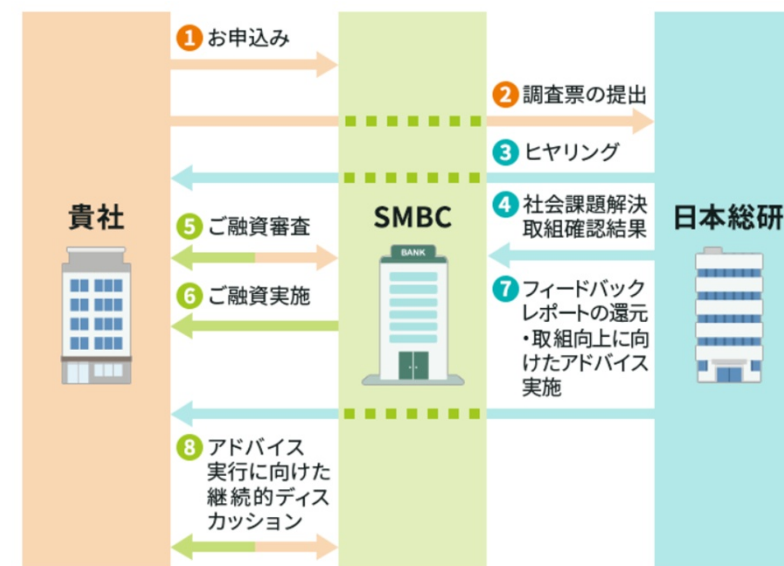
関連情報：<https://www.jri.co.jp/service/special/content17/corner171/>

● グリーンローン等の融資を通じ企業のサーキュラーエコノミーに資する取り組みを支援

グリーン/ソーシャル/サステナビリティローンの仕組み



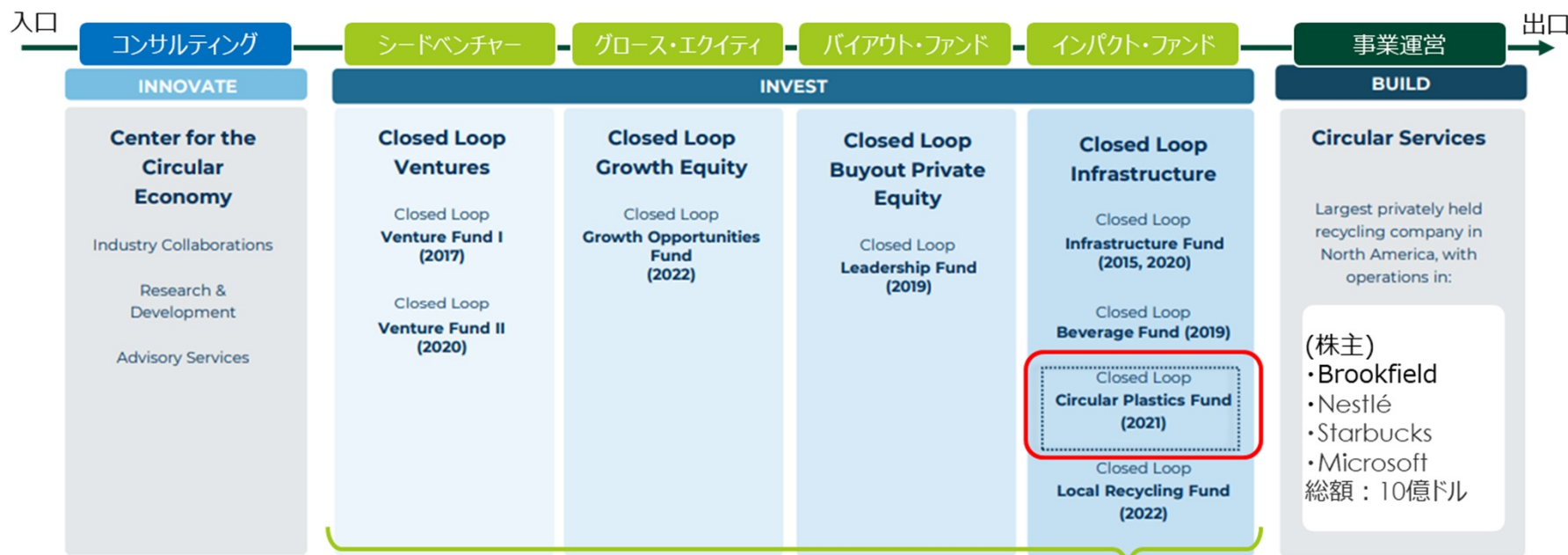
SMBC社会課題解決推進支援融資の仕組み



支援事例（一部）

支援先	内容
リサイクル業者	ケミカルリサイクルプラントに対する設備投資
航空輸送事業者	SAF導入等の取り組み資金
産廃・中間処理事業者	中間処理・最終処分施設に対する設備投資

- 米国の投資会社が運営するプラスチックリサイクルに取り組むファンドに出資



コラボレーション・アクセラレータ機能

CLIENTS INCLUDE

ADVISORY PARTNER

CLIENTS INCLUDE

Walmart

研究・開発内容の発信

Transitioning to a Circular System for Plastics
 Assessing Molecular Recycling Technologies in the United States and Canada

68件投資 (4大陸、8カ国、米国24州)

International Impact
 Portfolio Companies

- アミタとサーキュラーリンクスを設立、廃棄物管理システム・環境コンサルティングサービスを提供



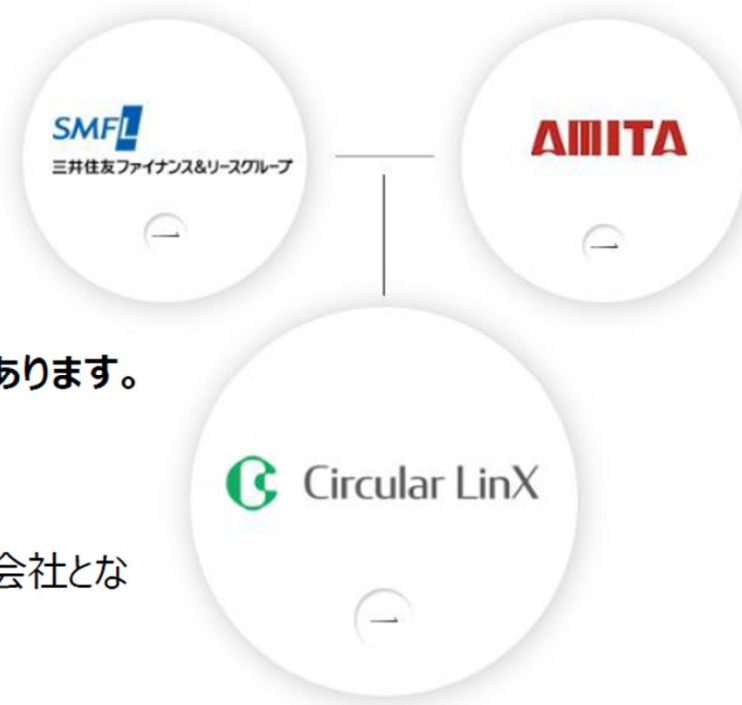
サーキュラーリンクス社のご紹介

サステナビリティ分野のベストパートナーへ

サプライチェーンの
サーキュラー化を促す
オペレーションを一貫して担う

Linkには「環（わ）」「きずな」「関係」「つなぐ」という意味があります。

私たちは、不安定で不確実性が高まる時代において、
サプライチェーンをサーキュラー（Circular）に変革（X）
していくため、BPOサービスとデジタル技術でつなぐ（Link）会社となることを目指し、Circular LinX と名付けました。



- アビツと合併会社を設立、機械設備・プラントの解体から再資源化までワンストップサービスを提供

株式会社アビツ

上場企業であるUSSグループ会社
11万㎡の敷地を有する工場で、
自動車部品メーカー、化学繊維
メーカー、全国規模物流会社等、
全国1,000社以上の産業廃棄
物処理リサイクルを行う

SMFLみらい パートナーズ

中古機械売買業務・不動産・環境エ
ネルギー等の各分野で三井住友ファ
イナンス&リースがこれまで培った中古
売買に関する知見・ノウハウ・実績を
基に、新たなサービスを提供



2社の得意分野を活かすことで環境に
配慮した高品質な解体工事を実現

■ 動静脈産業が抱える課題とSMBCグループの取り組み方針

	課題	SMBCグループの取り組み方針
動脈産業	・ サーキュラーエコノミーの推進に向けた方針がない ・ サーキュラー志向の製品設計になっていない ・ 自社製品を回収するスキームを構築できない ・ 再生材の品質/価格/量がニーズと合わない	セミナーによる最新情報提供 国内外の取組事例の紹介 外部パートナーとの連携による CE施策の提案
静脈産業	・ 動脈側の再生材に対する理解が足りない ・ 人手不足により再生材需要に対応できない ・ 回収量が少なく、再生材の生産コストが合わない ・ 研究開発・設備投資の負担が重い	設備投資ファイナンス支援 静脈間のアライアンス支援
動静脈連携	・ 適切なパートナーが見つからない ・ 欲しい技術が見つからない ・ 資金が足りない	マッチング支援 パートナーを通じた技術探索 リスクマネー供給

ご清聴いただきありがとうございました。